

人間学研究所・臨床心理学部共催イベント

日時：2012年12月8日（土）10時～12時

会場：京都文教大学 指月ホール（コンサート会場）、
第一会議室（第2部会場）、
介護演習室・西体育館（保育）

「RelaX'masをあなたに－ ゆっくり まったり ホッとコンサート♪」 実施報告

依田 博（京都文教大学人間学研究所所長）

人間学研究所ではこれまでも公開講演会やシンポジウムなど多数実施してきたが、いわゆる講演会形式ではないスタイルの公開イベントに取り組むことで、活動の幅を広げることができるのではないかという思いがあった。

折しも今年度実施したもうひとつの企画、「人類の始まりと日本人の性文化：浮世絵春画はおもしろい」のシンポジウムは、言うなれば人間が生まれる前の段階について論じたものである。したがってその次は「子育て」がテーマとなり、本学をとりまく地域のなかで子育てに勤しむ方々を対象としたイベントを検討するに至った。

また本学では2013年度より臨床心理学部に「教育福祉心理学科」が開設されることになり、「子ども教育心理専攻」および「保育福祉心理専攻」の2コースのもと、臨床心理学の見地を活かして子育てや教育支援等に携わる人材育成を目指していく体制が整えられつつあった。そこで臨床心理学部との共催を依頼し、同学部の松井愛奈先生と堀内詩子先生に窓口となっただき、本イベントの企画立案からご協力をいただくことができた。これにより臨床心理学科の「保育福祉支援コース」に在籍する学生にもイベントの実施に関わってもらえることとなり、彼らの協力のもとで保育サービスを備えることで、ひとときの時間を子どもから離れて保護者

だけで楽しむミニ・コンサートを中心としたイベントを12月のクリスマス・シーズンに実施するという企画が生まれた。

イベントの名称は、その保育福祉支援コースの学生による考案として、リラックスとクリスマスを掛け合わせた造語を用いて「RelaX'masをあなたに－ゆっくり まったり ホッとコンサート♪」とした。また保育サービスについては、宇治市で活動しているNPO法人「働きたいおんなたちのネットワーク」のキッズサポート部門に主だった部分を依頼し、比較的手のからない2歳児以上の対応支援については本学教員の指導のもと、保育福祉支援コースの学生スタッフが「臨床心理学基礎演習」の一環として担当させていただいた。

参加者の募集については、案内パンフレットを作成し、本学周辺の保育園・幼稚園、児童館、本学サテライトキャンパス等に配布をさせていただいた。また京都文教短期大学付属家政城陽幼稚園、および本学宇治キャンパスに併設の子育て支援室「ぶんきょうにこにこルーム」からもイベントの趣旨にご賛同いただき、広報については特段のご高配を賜ることとなった。同園長の藤野芳博先生、同室長の加藤きみ江先生をはじめスタッフの皆様方にはこの場を借りて御礼を申し上げる次第である。

当日は来場者23名、保育児童19名にご参加い

ただき、10時より本学指月ホールにてコンサートを開始した。オープニングでは、京都文教大学・短期大学アカペラサークル「LA*LA*LA」のメンバーによるパフォーマンスで幕を開け、松井愛奈先生の司会のもと、鐘幹八郎学長によるあいさつ、また吉村夕里先生による教育福祉心理学科の内容説明のスピーチをいただいた。

メインの第1部は「きく」と銘打ち、持木悠氏（テノール歌手）、柴田奈穂氏（ヴァイオリニスト）、石川まぎ氏（ピアニスト）にご登壇いただき、ポップスからクラシック、そして柴田氏の専門であるアルゼンチン・タンゴに至る多種多様な11曲が披露され、生演奏が生み出す独特のムードを聴衆のひとりとして心から楽しませていただいた。

第2部「はなす」は休憩をかねて会場を第一会議室に移し、障害者福祉施設「I-Style」による軽食を楽しみつつ、本学教員をまじえて来場者同士の「子育てトーク」をざっくばらんに語ってもらう時間を設けた。ただ、第1部を盛りだくさんにしたために、第2部の時間が十分にとることができなかった。これは大きな反省点でもある。

最後に第3部「うたう」では、日ごろのストレスを大声を出すことで発散していただくべく、持木悠氏の指導のもと発声練習を行い、堀内詩子先生のピアノ伴奏にあわせて、「Winding Road」（絢香・コブクロ）を参加者全員で合唱した。

約2時間にわたりこれらのプログラムが行われ、大きなトラブルもなく無事終了した。参加者の方々からも生演奏の良さ、子どもが預けられたことによるリフレッシュ、そしてプロの指導のもとで大声を出して歌うことで味わえた爽快感についての感想をいただくことができた。

保育サービスを設けたイベントは初めての試みであり、地域連携という枠組みのもとで学内外の多様なリソースを駆使していくノウハウを蓄積できたことは収穫であった。ひとえに松井・堀内両先生をはじめとした臨床心理学科の先生方によるきめ細かいアドバイスや事前準備に負うところが大きく、あらためて感謝の意を表したい。なお、本プログラムが企画の開始から本番まで順調に経過したのは、ひとえに事務局の

おかげでもある。研究支援課鈴木宣行課長の支えも大きかったが、同課人間学研究所担当の立石尚史氏によるポスターの作成、学内の諸部局や外部関係者への根回し、チラシの配布・募集、そして本番の手配りにいたるまでの確かな進行管理が行われた。立石氏に心より感謝申し上げる。



▲左から石川まぎ氏、持木悠氏、柴田奈穂氏



▲第3部「うたう」における、参加者全員による合唱



▲イベントの告知チラシ